

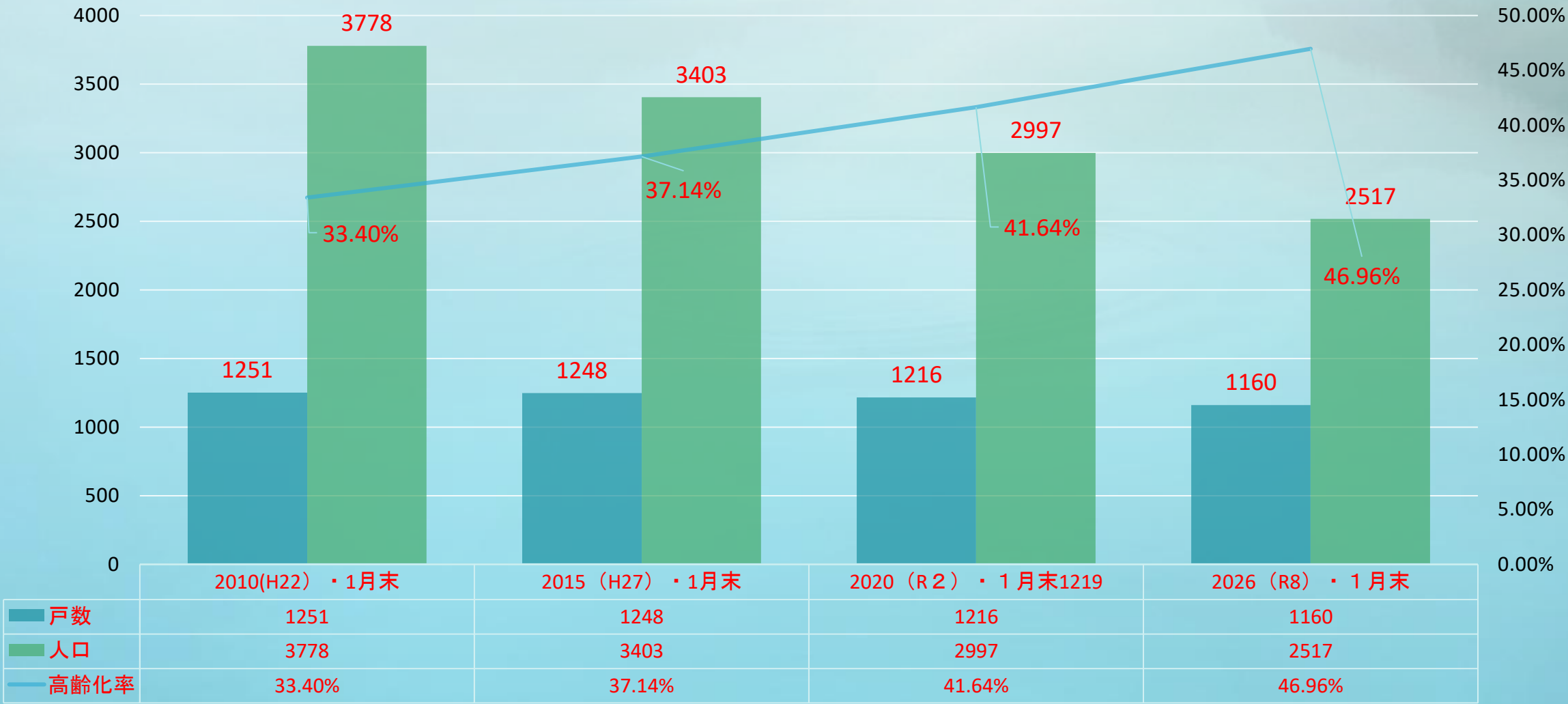
池原地域における「しがふるさと支え合い事業」の取組について

①池原の現状と地域課題等について

②地域のこれまでの取組みとこれからについて

余呉町の人口動態等の現状

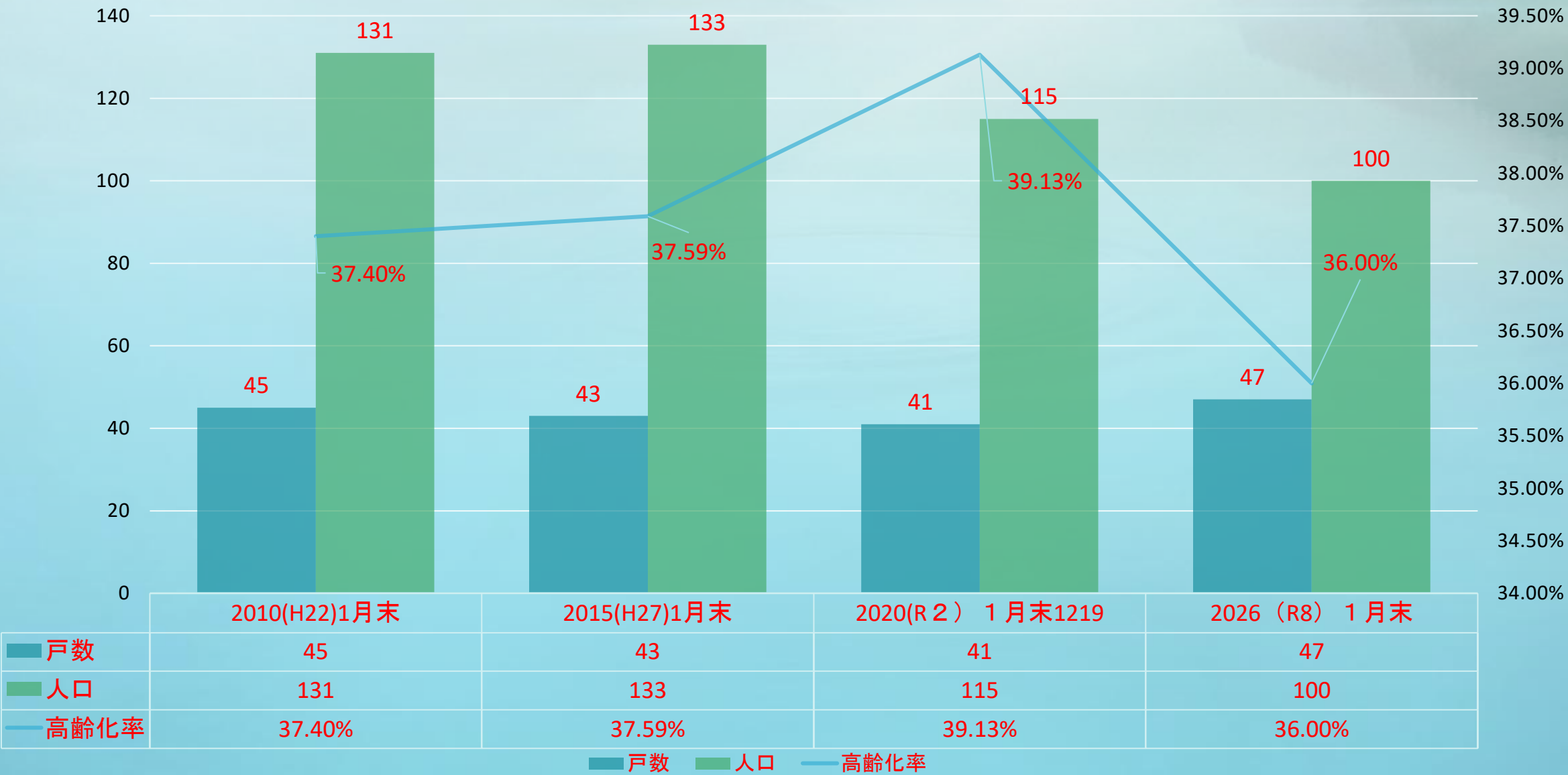
2026年（R8）1月末 人口 2,517人 高齢化率 46.96%



戸数 人口 高齢化率

池原地域の人口動態等の現状

2026年（R8）1月末 人口131人 高齢化率36.00%



池原自治会の現状と地域課題等

・少子高齢化の現状 ()書きは余呉町域全体の数値

2010年(H22市合併時) **45戸**(1,251戸) **131人**(3,778人) 高齢化率 **37.4**(33.4%)

2026年(R8年1月現在) **47戸**(1,160戸) **100人**(2,517人) 高齢化率 **36.0**(46.9%)

余呉町域の**限界集落**(高齢化率50%以上) ➡R8年1月 19自治会のうち9自治会

・生活支援(買い物、移動等) ➡移動コンビニ(あったか便)等見守り支援

・自治会等の運営(自治会内役職等の重任、担い手不足、行事等の存続の課題)

・空き家対策 余呉町域 約150～200戸 池原地域 10戸程度

景観の阻害、動物の棲み処、防犯上の課題等

・冬期除雪対策(特別豪雪地域) ➡今冬(2026年1月)の積雪 池原地域で120cm

・地域医療 公的医療施設 余呉地域唯一の診療所(医科・歯科)

・獣害対策等 ➡農用地の荒廃、生産や栽培意欲の減退、暮らしの安全安心への不安

➡農地や農産物を通じた地域のコミュニケーションの場の衰退

➡農業従事者の高齢化等による荒廃地の現出も一つの要因

池原地域における地域資源等

- ・豊富な自然環境(余呉町域では余呉湖や丹生川溪流、菅山寺自然園等)

池原の自然と環境をまもる会の結成 ➡組織化は平成19年度

- ➡耕作放棄地の解消、棚田の保全、そばの栽培、蛍生息地の保全、自然観察会等
- ➡世代まるごと事業や中山間地域(緩傾斜地)直接支払事業等支援事業への取組み

- ・史跡、社寺、仏閣及び特産品等活かした観光振興

賤ヶ岳合戦砦跡(地域内に行市山、別所山等)

余呉三山の中の一つである全長寺「だるまや紫陽花寺」 ➡観光客の増加

古民家を改修したそば道場の開設、そば生産組合等地域特産品の振興 ➡国外向けのそば打ち体験対応

- ・空き家対策 ➡空き家を地域資源として活用する(平成18年度～福祉空間整備事業の取組み)

空き家の活用➡多世代交流施設(そば道場)や福祉施設(グループホーム)移住促進、宿泊体験、災害時活用等

令和4年以降で他県からの池原地域内移住者(2軒)

- ・冬期除雪対策(特別豪雪地域における住民支え合い組織)

➡池原住民組織による自治会内生活路線消雪区域外の除雪班編成等

- ・しがふるさと支え合いを契機に滋賀文教短大との棚田ボランティア活動の拡充や交流の拡大等

👁 地域資源を活かした若者目線での地域活性化の提案等

池原地区の取組み状況について

スタートは平成26年度

県による集落別アンケートの実施

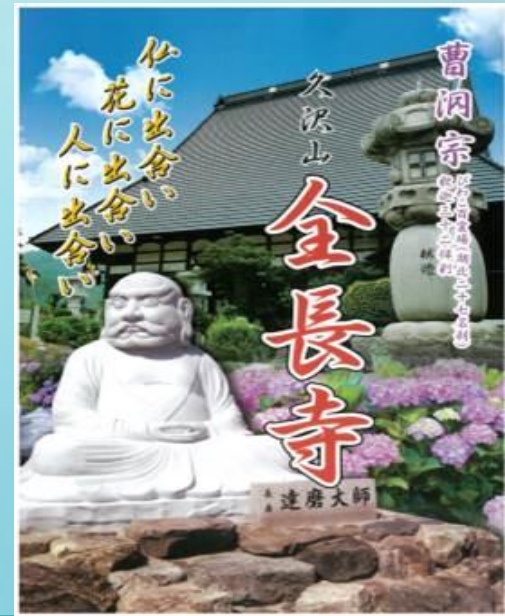
長浜市内の中山間地域の集落別アンケート

担い手の推移や集落の「強みや弱み」等の分析診断

空き家改修による
池原そば道場



余呉三山の一つ全長寺
「紫陽花とだるま寺」



池原地域の特産 そばの花の景観

アンケートから池原自治会を見える化（県資料より）

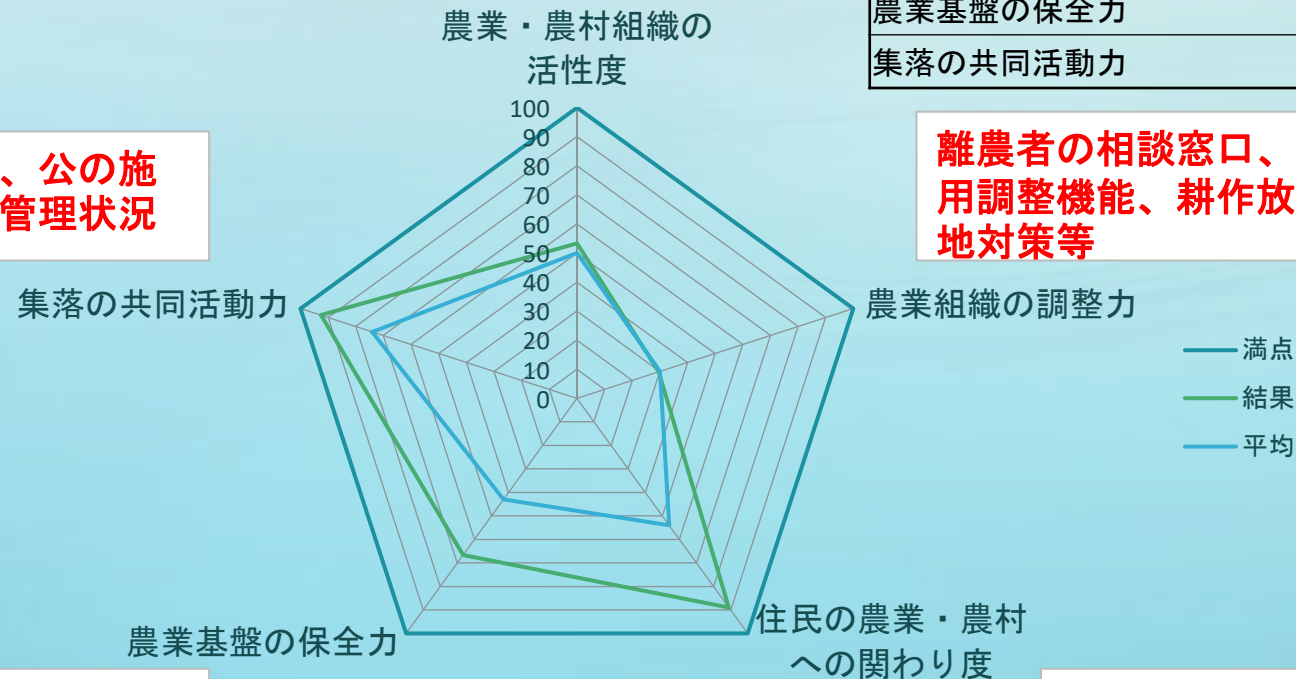
(%)

農村の維持・向上力

農業組合の構成、役員、
話し合い等の活動状況

	満点	余呉全体	池原
農業・農村組織の活性度	100	50	53
農業組織の調整力	100	30	30
住民の農業・農村への関わり度	100	54	89
農業基盤の保全力	100	43	67
集落の共同活動力	100	74	93

交流活動、公の施設の
共同管理状況



農道、用排水路の
保全管理、獣害対
策

離農者の相談窓口、利
用調整機能、耕作放棄
地対策等

土地持ち非農家の関わり、
若者や女性、高齢者の関
わり

話し合いの中から見えてきたもの

池原の自慢

- ひと(人情味)
- 食べもの(米、そば)
- 自然・景観
- 寺・史跡

池原の活かしたい地域資源

- 食べもの(米、そば、山菜)
- 交流(農業体験、食べる体験)
- 自然(バイオマスエネルギー)
- 景観(四季の花の植栽)
- 寺・史跡(史跡トレッキング等)

使えるもの(あるもの)

- 農地(水稻、ソバ、保全管理地、遊休農地)
- ひとの力(池原のみなさん、池原以外の方)
- 食べもの(米、そば、山菜等) → そば道場
- 史跡(全長寺、賤ヶ岳砦跡等)
- 景観(自然、蛍、雪、紅葉、桜等)

足りないもの(ないもの)

- ひとの力(関係人口、交流)
- アイディア(活かす工夫)
- きっかけ(やる気)
- 若さ(学校や社会との連携)

地域で使えるそうなもの(キーワード)

- ひとの力(池原内・外)
- 保全管理農地(圃場の活用)
- ソバの栽培とそば道場
- 草刈り支援
- 交流活動

課題解決に向けたきっかけ

棚田ボランティア(草刈り)で交流
を！

平成28年度
お試しの棚田ボランティア
(草刈り)を募集して実施

- ・ 平成29年度以降から棚田保全等草刈りボランティアを開催
➡現在までコロナ期を除き基本年2回(7月と9月)
- ・ しがふるさと支え合いプロジェクトを契機に滋賀文教短大との交流活動事業を展開(学校と地域との交流)

作業開始前の棚田ボランティア活動参加者の様子

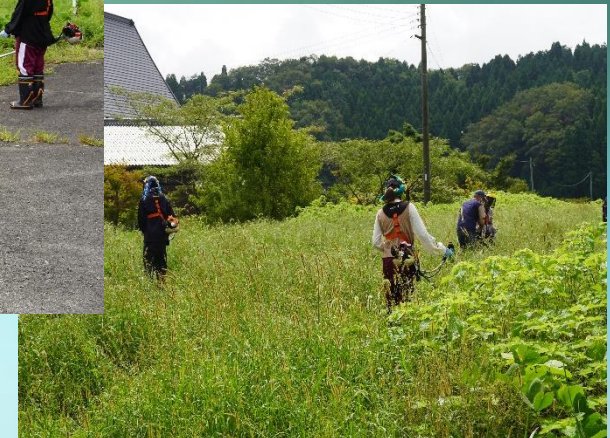
令和3年9月9日(土)



令和6年7月6日(土)



令和7年7月5日(土)



今までの棚田ボランティア活動の様子

活動前の地域住民との顔合わせ



作業前の安全講習



草刈りボランティア活動



たな友参加記念撮影



棚田ボランティア活動終了後のそば打ち体験と地域との意見交換会

そば道場での昼食会



そば打ち体験



昼食後の意見交換会



ボランティア活動後のそばの圃場の様子



今まで意見交換から(1)

地元関係者の感想

- ・草刈りは大変な作業であるのにボランティア活動に参加してもらってありがたい。
- ・若い人の参加があって、受け入れる地域に活気が出てくる。
- ・このような交流が続いていく事をこれからも期待したい。
- ・事故なく無事でよかった。
- ・田舎の集落であるが、みんながこのように頑張っていることに関心を持ってもらえる良い機会となり良かった。
- ・学生さんが来ると張り合いがある。
- ・草刈りは大勢でやると良い。

ボランティアさんからの意見

- ・草刈り体験大変であったが、活動する中で地域の繋がりを身近に感じた。
- ・作業の大変さを感じたが、終わってみると棚田ボランティアの活動が楽しく感じられた。
- ・人柄が良い。・パワフル・親切な人が多い・そばの収穫等も体験したい。
- ・しがふるさと支え合い事業により学生等の参加で棚田ボランティア活動を通じて交流事業に取り組むことが出来た。来年2年生が最後になるがこのような繋がりを大事にしたい。令和9年度以降どの様になるかわからないが卒業生にも声掛けして行きたい。

地域活動としてこのような取り組みもしています。



生きもの観察会



ソバまき（手まき）



そばまき後の
覆土の手伝い

長く続けられるポイント
大きな変化でなく
小さな変化の積み重ね

これからの農山村サポート

地域を守る継続した活動

<地域で困っていること>

- ・草刈り等農地の保全
- ・後継者、担い手不足等



地元では

- ・地域行事(納涼祭や行い等)
- ・営農(水稻・ソバ等)
- ・制度を活用した農地・水路等の保全活動
 - ◇農村まるごと保全
 - ◇中山間直接支払制度



(継続)

地域と地域以外の方とが助け合う
「守る・創る、つなげる」活動



交流できる企画等
「地域の保全と活性化」に向けた
サポート支援

平成30年度から「しがふるさと支え合い事業」

⇒これまでの交流を活かして滋賀文教短期大学と池原地域との連携による取組みを展開

⇒シラバスの一環として学生による若者目線で地域の魅力や地域資源の活用等をフィールドワークによる成果について提案提言

⇒地域の伝説、伝承等口承文化や歴史、地域特産物等の活用等々研究成果等発表会に地域として参加し、意見交換を毎年複数回に亘り交流。

学生の成果 地域の魅力再発見(口承文化関係動画)・おくびわぐらし(VOL1 VOL2)